

MUSASHINO PARK-LIFE MAGAZINE

MPM

2017
AUTUMN
WINTER
VOL.8

むさしのパークライフマガジン

YOUR PARK LIFE : Park Life × むかし

FOCUS : 「国分寺の自然 × 歴史、再発見！
ディスカバリー・ツアー春編」

ESSAY : ヴィンテージのピクニックカッパ

公園からはじまる、気持ちのいい一日。

季節を感じ、ほっとできる場所。

なにもしない、贅沢な時間。

……きつと、公園で過ごす時間は暮らしを豊かにする。

私たちは、そんなことを思っ日々公園で働いています。

公園を使いこなすと、どんなライフスタイルが待っているのか。

この「MUSASHINO PARK-LIFE MAGAZINE」では、

ちょっと素敵な自然のこと、

いままで気づかなかった生きものの不思議、

暮らしを豊かにする公園の使いこなし方、などなど。

公園で働く私たちだからこそお届けできる、

“パークライフ (Park Life)”の魅力をお伝えしていきます。



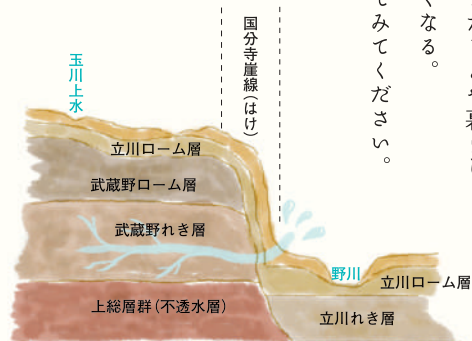
都立武蔵野公園「秋の夕やけ」

Park Life

×

むかし

私たちが住む武蔵野台地には、その土地が生きてきたたくさんの歴史が眠っています。公園には、その記憶を少しだけ垣間見ることができる場所があります。それは、歴史的建造物や文化財のようなものだけではなく、そこに立つと遠い時空を飛び越え、この場所で起きたことや暮らした人たちに想いを馳せたくなる。そんな「むかし」を感じてみてください。



国分寺崖線周辺 地層断面略図
 武蔵野台地に雨が降ると、ローム層、れき層に浸透し、水を通さない上総層群で止まり、粒子の粗い武蔵野れき層の中を地下水となって流れている。それが国分寺崖線の下層で染み出し湧水となる。



キンラン 絶滅危惧Ⅱ類 (環境省)

大地の記憶を伝える国分寺崖線

武蔵野台地は約10万年前に奥多摩の山が大雨や洪水によって削られ、運ばれた土砂が堆積してできた扇状地。その上に火山灰によるローム層が堆積し(8~4万年前)、それを古多摩川が削ってきたのが国分寺崖線です(7~3万年前)。ここはその地層が崖線として露出し、この台地を通ってきた水がろ過されて湧き水となって染み出る貴重な場所。かつては農家の屋敷林などとして、大切に活用されていましたが、いつしか人の手が入らなくなり荒廃した森と化していました。近年、公園の緑地として計画的に樹木の手入れをし、一部は光が入る明るい森となりました。そこでは、埋もれていた種が再び芽を出し、環境省の絶滅危惧種となっているキンランが花を咲かせるなど、かつての生態系が再生されています。

都立武蔵国分寺公園「国分寺崖線内」

国分寺崖線(はげ)



玄武

武蔵国分寺跡資料館

野川 →

東山道武蔵路

東山道は、7世紀後半～8世紀前半、律令国家体制を確立させるため、都と地方をつなぐ道路網のひとつ。しかし現在の府中に国府があった武蔵国は東山道から外れた位置にあったため、南下する支路として武蔵路がつくられた。



白虎



青龍

武蔵国分寺

区画溝



朱雀

多摩川流域 ↓

四神相応の地

東には青龍にあたる川があり、南に朱雀の低湿地、西に白虎の大道、北に玄武の丘陵地があることが好条件とされ、武蔵国分寺では、東に野川、南に国府と多摩川のある低地、西に東山道武蔵路、北に国分寺崖線とまさに祝福された土地だった。

武蔵国分寺跡資料館「武蔵国分寺跡推定復元模型」

四神相応の地に建てられた武蔵国分寺

奈良時代、災害や疫病で苦しむ人々を仏教の力で助けようと聖武天皇が諸国に命じ、建てられたのが国分寺です。武蔵国分寺は、武蔵の国の国分寺として758年頃建立されました。その立地は、仏教と同じく中国から伝わった「四神相応」という考え方に基づいて、国を安定させるのにふさわしい場所として選ばれ、全国でも最大級の寺域と最新の伽藍様式で大規模に建設されたことが跡地から伺えます。武蔵国分寺公園の真ん中、南北をつなぐふれあい橋に立つと、西の夕日が落ちる方向に東山道武蔵路の跡が、北は武蔵野台地、南は武蔵国分寺跡、そして東には東京スカイツリーがうっすらと望むことができ、過去と現代の壮大なタイムトリップに引き込まれそうになります。



都立武蔵国分寺公園 寺域北辺溝

かつて寺域と外界を分けていた区画溝の跡。上面の幅が約2.5m、深さ約1.3mの素掘りの溝が、東西約900m、南北約500mに渡って掘られていた。今は公園の雑木林の下で、静かに時の流れを伝えている。



都立武蔵国分寺公園 ふれあい橋

多喜窪通りの上にかかる、北の円形広場と南のこもれび広場をつなぐ歩道橋。橋には武蔵国分寺発掘調査で出土したあぶみ瓦をモチーフにした図案もデザインされている。橋の西には復元された東山道武蔵路跡がみられる。



都立浅間山公園（府中市）「秋の風景」

時代のうつりかわりとともに残った山

堂山、前山、中山の3つの頂を持った小高い丘全体が都立浅間山公園です。前山に、平家物語に登場する武将・人見四郎の墓があり、かつては人見山と呼ばれていましたが、富士山眺望の地として、堂山に浅間神社が建てられ浅間山となりました。江戸から明治・大正にかけては、近隣農家が落ち葉を肥料にしたり薪をとったりする入会地として使われていましたが、太平洋戦争中は陸軍の軍用地となり、戦後は浅間町にアメリカ空軍の司令部が置かれ、地域の手を離れた時代もありました。しかしその後、市民による自然保護の動きが高まり、昭和45年都立浅間山公園として開園。現在、ムサシノキスゲが、日本で唯一自生している場所として、元朝詣などの信仰の場として、たくさんの方々の地域の人々に愛され、大切に保全されています。



ムサシノキスゲ



古多摩川やその他の河川が氾濫し、周辺をすべて削りとったあとに残った丘が浅間山。水色の部分はすべて古多摩川が流れた場所。地質学的には武蔵野台地が成立するよりも古く、多摩丘陵の一部が削り取られて残ったと言われている。



都立野川公園「冬の朝の野川」



野川・国分寺崖線周辺の遺跡
野川遺跡の他にも、国分寺崖線に沿って、遺跡がベルト状に広がっている。



土偶
(壺ノ内式 / 高さ11.1cm)
：縄文時代後期

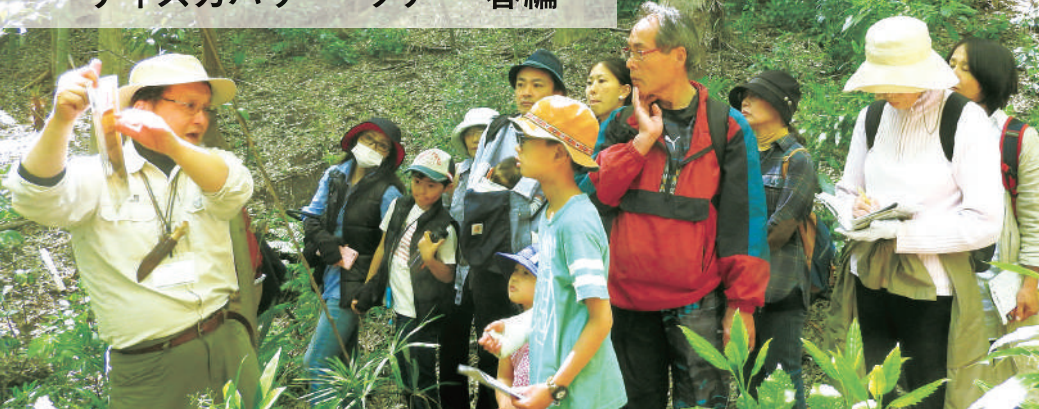
石鏃
(黒曜石、チャート)
：縄文時代前期から後期

(画像提供：国際基督教大学博物館湯浅八郎記念館)

旧石器・縄文の暮らしが眠る野川流域

武蔵野台地に浸透した地下水が国分寺崖線下のれき層から湧き出て、集まった流れが野川です。野川周辺は、飲料水はもちろんのこと、生き物や木の実も豊富で、食べ物を手に入れ易い土地でした。さらに国分寺崖線は南向きで日当たりのいい斜面があり、その上の台地は水はけが良く住みやすいという、原始・古代の人々にとって集落を形成するのにまたとない好条件の場所でした。そのため、野川周辺には旧石器・縄文の遺跡が数多く発掘されています。野川遺跡は、旧石器が多数発掘された地層において、地質学的な層序が確認されたため、旧石器時代の編年研究を大きく発展させることに貢献しました。その出土品は現在、国際基督教大学の湯浅八郎記念館などに保管・展示されています。

国分寺の自然 × 歴史、再発見！ ディスカバリー・ツアー 春編



自然の姿をよく観察することで、この土地の歴史を辿る。そんなコンセプトをもとに企画されたディスカバリー・ツアーが、国分寺市教育委員会の協力により、春に開催されました。

講師は、国分寺市教育委員会ふるさと文化財課の渡邊典子氏と、NPO birthのパークレンジャーである蜂須賀公之氏。子供から大人まで17名が参加し、国分寺崖線の自然と歴史についての解説を聞きながら、散策をしました。スタートは武蔵国分寺公園。円形広場で常緑樹の落ち葉拾いゲームを行った後は、ふれあい橋を通じて野鳥の森へ移動します。ふれあい橋からは「東山道武蔵路跡」も望めるため、発掘当時の写真を見ながら渡邊氏の解説を聞きました。



武蔵国分寺公園の円形広場で、常緑樹の落ち葉拾いゲーム。みんなで集めた葉っぱはどれもきれいで、自然が作り出した色合いに驚きました。



水が豊富であったこと、東山道武蔵路があるので移動に便利であったことなど、なぜこの土地に国分寺が建てられたのか、渡邊さんが解説してくれます。

野鳥の森では野生のハーブを探し、五感を使って自然を楽しみます。その後は、野川源流の森を特別に公開！普段は入ることのできない、公園内にある国分寺崖線の姿を見ながら、この地形と豊かな自然について、蜂須賀レンジャーによる解説を聞きます。

公園を出てからは、武蔵国分寺跡資料館に入り、終点は史跡武蔵国分寺跡。広い原っぱには金堂跡などもあり、ガイドツアーが終わった後も、遺跡探索を楽しむ子供たちの姿が見られました。参加者からは、「普段歩いている公園の自然と歴史が、つながりのあるものとして感じられました」「また違う季節のツアーにも参加してみたいです」との感想が集まり、この土地の自然を通して1300年ほど前の時代に思いを馳せる、楽しいツアーとなりました。



崖線の下にある「真姿の池」の湧き水も、野川の源流のひとつ。昔、絶世の美女であった玉造小町が病気の最中、この池の水で体を洗ったところ、病気が治り美しい姿を取り戻すことができた、という伝説があるのです。



武蔵国分寺跡資料館では、おもに史跡国分寺跡の出土品が展示されている他、これまでの発掘調査の結果なども紹介されています。武蔵国分寺のジオラマも展示されているので、実際に歩いた場所と比べてみるのもいいでしょう。



建物の柱を支えるための礎石が今でも残っている、史跡武蔵国分寺跡。子供たちも地面にしゃがんで夢中で遺跡探索をしていました。

NEWS

ディスカバリー・ツアー 秋編 「国分寺の自然 × 歴史、再発見！」

国分寺崖線から武蔵国分寺跡へ、秋の自然と歴史を感じるツアー。自然や史跡に詳しい2人の講師がご案内します。通常は非公開の野川源流の森も特別公開します。

【開催日時】2017年10月15日(日) ①9:30～12:00 ②13:30～16:00

【定員】各回 25名 【参加費】無料

【対象】小学生以上(小学3年生以下は保護者同伴)

※崖線内も歩きます。歩きやすい服装、靴でおいでください。※雨天中止

【申込先】都立武蔵国分寺公園サービスセンター(国分寺市泉町 2-1-1)

TEL 042-323-8123 (10月2日より受付開始)

【アクセス】JR 中央本線・武蔵野線「西国分寺駅」徒歩 7分

JR 中央本線・西武鉄道多摩湖線及び国分寺線「国分寺駅」徒歩 10分

JR「国分寺駅」から京王バス(総合医療センター行き)「泉町一丁目」下車

参加者募集中！



【講師】
NPO birth
自然環境保全部
金本敦志レンジャー

【講師】
国分寺市教育委員会
ふるさと文化財課
学芸員 中元幸二氏



同日開催：
「みんなで公園ピクニック」11:00～15:00 円形広場

ヴィンテージのピクニックカップ

Episode.8

「六仙公園へ行くなら。南沢の湧水群から入るのがいいよ。」
以前、古い友人に会ったとき、そんなことを言われた。地元の市役所に勤めている彼は、高校時代はバイクかギターのこどしとか話さなかつたので、その湧水のことか、妙に心に残っていた。
「私の実家の近くにも泉があつたのよ。」
珈琲を淹れながら、彼女が言う。いくつもの泉と、それを囲む草原、森と蛙、小さな牧場とヒバリの声。夢の彼方に行ってしまった風景が、そこにあるように話す。

日曜日、東久留米駅で降り、落合川の遊歩道を源流へ向かって歩く。秋空を背に、清流が葦の根を舐め、無数のトンボが飛んでいた。枯れたギンギンの濃い茶色、カゼクサの薄茶色、薄緑のエノコログサ、この色合いが僕は大好きだ。
川はやがて浅くなり、飛び石で向こう岸へ渡れる瀬があつた。そこから森の中を歩いて行くと、一番奥に崖線があり、水が静かに湧き出していた。小さな茶色の玉石の上を、クヌギの黄葉が流れてゆく。

崖線を上がり明るい道を少し歩くと、そこが六仙公園だ。小高い丘に上がると秋の陽が胸に降り注いだ。
「ああいいわね、こんなところに住んで

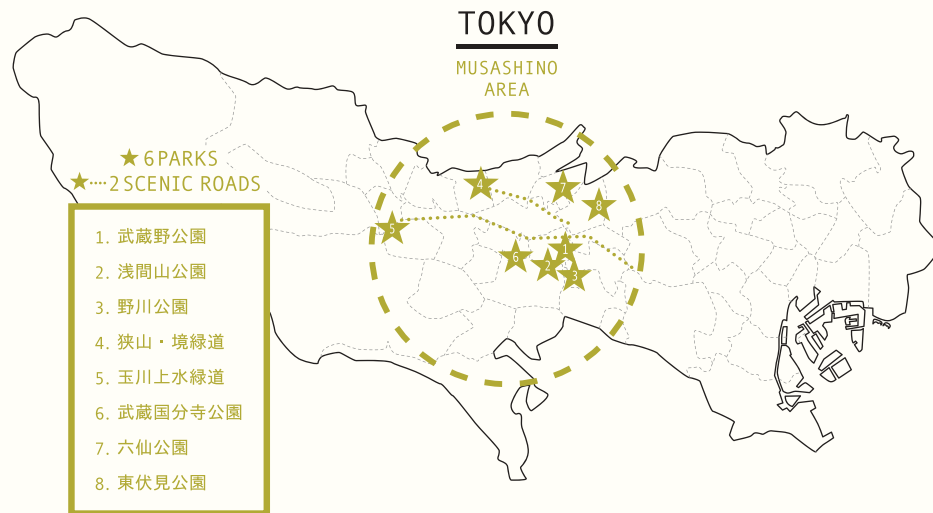
みたい。水があつて、森があつて、明るく広い草原があつて！」
それは、一万年前の縄文人が言つたのと同じ言葉だつたかもしれない。僕たちが立つたのは「縄文の丘」と呼ばれる場所、このあたりにあつた六仙遺跡から公園の名はついたのだ。丘の足元には、地球誕生からの年表が刻んであり、僕らはそれを最初から歩いた。縄文時代は二万年もあり、そこからはたつたの二千年だつた。「私の中には、縄文の血の方が色濃くあると思うわ。一日パソコンをしているのじゃなく、森や草原や水辺で生きる血。」
川辺を歩きだした時から、その美しい血が、彼女の中を巡りだしたことを僕は知っていた。心の底の枯れない湧き水。
丘の周りに植えてあるのは、縄文の村にあつた木だ。トチの実のパンを焼き、ガマズミの赤い実をつまみ、僕らは生きていたかもしれない。
広い世界、遠い世界を歩いた気持ちになつていた。六仙公園へ行くなら。南沢の湧水群から入るのがいい。ひと続きの水と森の風景が見えるから。

蜂須賀公之 はちすかみよゆき
武蔵野生まれ、武蔵野育ち。東京の自然をこまかく愛するレンジャー、インタビューター。

西武・武蔵野パートナーズ

武蔵野エリアにある都立公園の指定管理者「西武・武蔵野パートナーズ」は、2011年より武蔵野エリアの公園と緑道を管理してきました。2016年からは西武造園(株)・NPO法人NPO birth・ミズスポーツサービス(株)に、一般社団法人防災教育普及協会を加えた共同事業体として、新たなスタートを切りました。

「人・自然・まちが元気になる公園に」をコンセプトに、武蔵野の自然と文化を大切にしながら、さらに公園の可能性を広げるため、みなさんとともに、元気になる公園づくりをすすめます。



発行：西武・武蔵野パートナーズ TEL:0422-31-6457(都立野川公園) <http://musashinoparks.com>

発行日：2017年10月1日

デザイン：川上明子

イラスト：高安恭ノ介

写真：井上茂(P4-P7)、浅間山自然保護会会長・山田義夫(P8-P9)、一般社団法人武蔵野コッソウォルズ・鈴木俊彦(PI0-PI1)

協力：国分寺市教育委員会ふるさと文化財課、国際基督教大学博物館湯浅八郎記念館

編集・製作：西武・武蔵野パートナーズ/リュエル・スタジオLLP

印刷・製本：シナノ書籍印刷株式会社

表紙写真/都立武蔵国分寺公園「ハナノキ」(撮影：蜂須賀公之)

MUSASHINO
PARK-LIFE
MAGAZINE

SEIBU・MUSASHINO PARTNERS

<http://musashinoparks.com>